

住宅と玄関ドア

Vol. 10

P

第10号のポイント

1. 玄関ドアの両側の温度差が40°C以上でも耐える構造。
2. 楕円形の採光窓でも3層ガラスを使用。
3. 玄関ドアの厚みは約60mm。その重さはなんと約100kg！

?

筆者プロフィール

金井田晃央(かないだあきお)
 1975年 群馬県生まれ
 日本大学大学院(建築・構造)を卒業後、スウェーデンへ渡る。
 スウェーデンで住宅・建材の輸出マネージャーを10年間務める。
 河本工業の次世代型住宅である“Komoto Hus”(河本ヒュース)の開発メンバーに携わる一人。
 スウェーデン住宅・建材・家具等の輸入手配を主に担当している。
 筆者ホームページ：
<http://mala-gruppen.com>



3層ガラスの採光窓と多層構造のスウェーデン製木製断熱ドア

Hejsan！今回はスウェーデンの木製ドアについてお話しします。ドアといっても、住宅には二つあって、一つは室内ドア、もう一つは玄関ドア(外部ドア)です。この二つは全く違った構造をしています。室内ドアは、部屋と廊下など、屋内の分割した空間を移動するものであって、両側の空間は原則同じ環境になります。これに対し、玄関ドアは、屋内と屋外と、温度・湿度共に異なった環境を仕切っています。両側の温度差は、スウェーデンなど40°C以上になることもあり、それに耐える構造が必要となるのです。

どのような構造になっているかというと、ドアのフレームとなる材は、木目が細かく良質なスウェーデン北部産のパインで、狂わないように基準値まで乾燥させた材を使用しています。ドアの扉は、ウッドファイバーの断熱材が充填され、それを何層もの合板やアルミ板で覆った多層構造となっています。

この構造によって厳しい環境の中でも何十年と使い続けられるドアが仕上がるわけですが、残念ながら、私たちが玄関ドアの内部まで情報を得ることはありません。カタログでは同じように見える玄関ドアでも、値段が違うのは、実は使っている材や内部の構造が違うからです。

玄関ドアにはデザインによって様々な採光窓もあります。スウェーデンの玄関ドアでは、たとえ楕円形の採光窓でも3層ガラスを使って、断熱性の低下を抑えています。そのため、とても重厚そうに見えるこの玄関ドア、本当に重厚で、ドアの厚みは約60mm、重さはなんと約100kgもあります！
 次回は、このスウェーデンの玄関ドアについてさらに詳しくお話しします。お楽しみに！

文責 金井田晃央 (筆者へのお問い合わせ先: info@mala-gruppen.com)

Innovation : イノベーションとは、これまでのもの、仕組みなどに対して、
 全く新しい考え方や技術を取り入れて新たな価値を生み出し、社会的に大きな変化を起すこと。